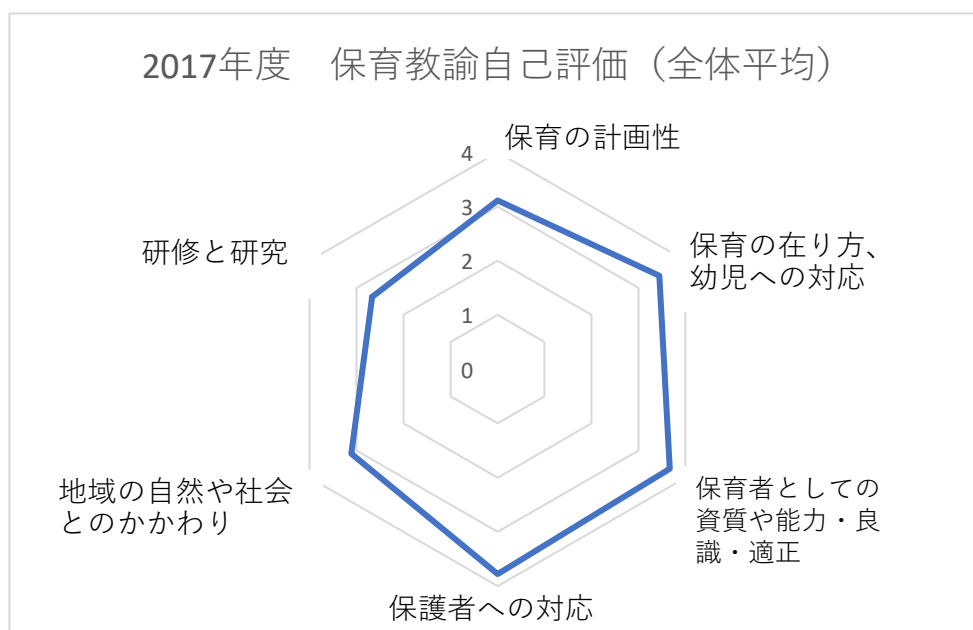


## 2017年度 自己評価のまとめ

職名	雇用形態	氏名	項目ごとの平均ポイント					
			I 保育の計画性	II 保育の在り方・幼児への対応	III 保育者としての資質や能力・良識・適正	IV 保護者への対応	V 地域の自然や社会とのかかわり	VI 研修と研究
主幹	常勤 正規	A	3	4	4	4	3	3
主幹		B	4	4	4	4	3	4
保育教諭		C	4	4	4	4	3	4
保育教諭		D	3	3	3	4	3	3
保育教諭		E	4	3	4	4	3	3
保育教諭		F	4	4	4	4	3	4
保育教諭	常勤 臨時	G	3	3	3	4	3	3
保育教諭		H	3	4	4	4	3	2
保育教諭		I	3	3	3	3	2	2
保育教諭		J	3	3	4	4	3	3
保育教諭		K	3	4	4	4	4	3
保育教諭		L	3	4	4	4	4	3
保育教諭	非常勤	M	4	4	4	4	3	3
保育教諭		N	3	3	4	4	3	3
保育教諭		O	3	3	3	3	3	2
点数人数 総数	15人	各項目の 平均ポイント	3	3	4	4	3	3



## 2017年度 自己評価を終えて

本年度まで、担任のみが記述式で反省・評価を行っていたが、今回チェック式に変更した。基本となる項目は、幼稚園のものを利用しているため、以下のような反省が出た。

1. 項目の文言を変更する箇所がいくつかある。
2. 副担任やフリーの保育教諭は、記入できない項目がある。主担任用とそれ以外の保育教諭の項目を変えるほうがよい。

全体的な自己評価を見ると、概ね平均以上の評価である。その中でも、「保護者への対応」や「保育者としての資質や能力・良識・適正」は高い評価であるが、「研修と研究」と「地域の自然や社会とのかかわり」が低くなっている。

主担任は毎月の研修の他に、年2回研究発表をする場があるが、それ以外の先生の研修の機会が少ないことが低い評価につながっている要因である。

副担任やフリーでもキャリアアップ研修の担当になっている先生は、連続して研修に行く機会がある。研修が多すぎて、保育が手薄にならない範囲で全員に研修の機会を与えたい。

「地域の自然や社会とのかかわり」では、園の周りの散歩や当園の森の駐車場でのどんぐり拾いや落ち葉拾いは頻繁にしているが、地区全体を活用した散歩は交通量の増加とともに減少していることが低い評価の要因である。地区全体を散歩する中で、地区の人とのかかわりが増えていくと考えられる。